

太田市自分ごと化会議 2022

第4回会議 議事概要

日時	2023年3月18日(土) 13時~16時
場所	太田市役所 3階 大会議室
コーディネーター	千葉県市原市 企画部長 高澤 良英

コ：コーディネーター、ナ：ナビゲーター、委：委員、市：市職員

議事概要

■前回会議までの振り返りと第4回会議の進め方

前回会議までの振り返りを行い、第4回会議の進め方を説明した。

【以下、振り返りと進め方の概要】

- ・今回が最終回。皆さんの意見を市にどう届けるのか、皆さん自身が災害に備えるためにどう取り組むのかを話し合う。ゴールの回だが、スタートの回でもある。
- ・事前に提案書案を配布。「防災に関する課題や解決策」「防災マニュアルの改善点や活用方法」について会議で出た意見をまとめた。追加・修正する点について意見をもらいたい。
- ・「防災に関するフローチャートのようなものがあれば良い」という意見があったため、「防災自分ごと化シート」の案を構想日本で作成した。皆さんから意見をもらい、合意が得られれば提案書に掲載する。
- ・会議の最後に、「今日からの防災自分ごと化宣言」と題して、皆さんが防災のために行うことを宣言してもらいたい。例えば、市の広報紙をよく見るようにする、市の防災メールを登録するなど、簡単なことでもよい。宣言は提案書に掲載する。

■全体での意見交換

提案書案について、各テーマごとに委員から感想や意見を聞いた。

《提案書案を読んだ感想(抜粋)》

- ・今まで災害について考えていなかった。会議後、災害を意識するようになった。
- ・ペットの避難の仕方を考えている人は少ない。ペットショップやドッグカフェなどにポスターを貼るなどして周知すれば良いのではと思った。
- ・P.20に子どもも読みやすいマニュアルに、と書いてあってその通りだと思った。子どもが成長する過程で教えられるように学びたい。イラストや動画など見てわかるようなものがあると小さい子にも伝えやすいのではないかと思った。
- ・ペット、子ども、高齢者などそれぞれに心配するところは異なる。同じような境遇の人たちのコミュニティの中で共有していく場があれば良いのではないか。
- ・2月10日に大雪が降り、1時間ほど停電になった。備えが無く寒かった。会議に出

- たことで、意識を高く持っていたはずだが、何をして良いかわからなかった。
- ・地域でのコミュニケーションをもっと持った方が良いと思った。今回参加して、自分で調べたり記事を読むようになった。別の町で防災のビブスを作ったというのがあった。良いものは太田市でも取り入れてほしい。
 - ・防災マップを活用していくことが必要。誰にでも分かりやすくというのも提案に入っていて良かった。防災マップや防災メールを周りの人に広げていきたい。
 - ・ブラジル人学校で働いているが、会議に参加していることや会議の内容を職場に報告している。学校内で、訓練の仕方が分からないという話が出た。学校で自主的に訓練をやってもいいのではという話をしたりした。
 - ・会議に参加して今までやっていた訓練を見る目が変わった。災害に関するアンケートを外国人を対象にやってみるのも良いのではないかと、会議に参加して思うようになった。
 - ・今までは防災への意識が無かったが、これからは考えを変えていこうと思った。

《提案書案 P.6～17「防災の課題と解決する方法」についての意見（抜粋）》

- ・災害が起きた時にすぐ使えるようなポケットサイズの防災マップがあると良い。
- ・自分の事を伝えられる子どもなら良いが低学年だと難しい。親の避難場所が分かるようなものを作成しておき、それを見てどこに避難させたらよいか分かるものが平常時に用意できると良いと思う。
- ・P.16 に冷蔵庫に情報を書いたカードを入れる話があるが、例えば発達障害の子は苦手なことを伝えられずにパニックになることがある。どういう特性を持っているかわかるものを用意しておくことで、そうした方たちのフォローも取りこぼしが無い。認知症も見た目ではわからない。要配慮者の情報が細かく分かるものが整備されていくと安心だと思う。
- ・要支援者向けのバンダナがあると良い。他市でバンダナを配る取組みを要支援者に対しておこなっている。バンダナを配布していることを周知する必要があるのでは。（⇒危機管理室からの補足情報：太田市では避難所にバンダナが備えてある。また、聴覚障がいを持つ市民へは既にバンダナを配ってある。）
- ・ペットは好き嫌いがはっきり分かれて対立が起きる。ペットがいる避難所にはいかないという人も出てくると思う。ルール化が難しいと感じる。
- ・イオンなどの大型ショッピングセンターの駐車場が有事には避難場所になる等、他にもそういった場所があれば事前に周知があっても良いと思った。
- ・P.15 の親子防災手帳の話。子どもが大きくなると母子手帳が重要ではなくなる。日中働いていると行政と接点がない。「接点のあるタイミングで」ではなく、保育園や小学校で渡すというような記載の方が良いのでは。
- ・P.17 の日頃からコミュニケーションを取っておくというのはざっくりとしている。

クリスマスになると隣近所に挨拶をするので、そこでコミュニケーションを取るなど書けないだろうか。ただ、コミュニケーションを日頃からとっておくというのは難しい。

- ・近所に外国人の方が多く住んでいるが、なかなか一緒になる機会がない。ごみ出しなどルールを伝えているが、やる気があるのかないのかわからない。
- ・会社で福利厚生の仕事をしている。海外からの実習生もおり、初めての日本生活でルールが分からない人には、会社で研修の時間を設けたり、観光に行ってもらったり、時に通訳を入れて困りごとを聞いたりなど、日本生活になじめるようにサポートしている。地域のイベントなどへの参加を呼び掛けるのも良いのでは。
- ・30歳までブラジルで過ごし、博士号を取得してから来日した。当時、大宮に行くだけでも迷子になった。あんなに勉強したのに、ここでは読み書きもできない人なんだと感じた。それから長く日本に住んでいるが、様々な理由で日本語を覚えられていない。だが、日本のことを知らないわけではない。働くために来ている外国人が多いのは事実だが、日本で教わったことは周りの人や子どもにも伝えているし、伝わっていると信じている。日本で生活したいからという理由で住んでいる人もいることを知ってほしい。
- ・公園で孫を遊ばせていたら、外国人の女の子が居た。日本語ができるかわからなくて声をかけるのを躊躇していたが、しっかりした日本語で話しかけて来てくれた。そばに居たその子のお父さんから日本語でありがとうございましたと言ってもらえた。初めからもっと話をすればよかったと思った。職場の施設の利用者にも外国人の子がおり、親御さんは日本語が話せない。日本人側が努力しないといけないと思う。仲良くできるはずなのにきっかけを掴めていないということもある。子供はすごいと思ったので、見習わないといけないと思った。

《自分ごと化シートについての意見（抜粋）》

- ・簡素にまとまっているのは良いと思う。
- ・通常時にチェックリストをやっておいて紙にプリントアウトしておけば、災害時に電気やネットが無くても見れて良いと思う。
- ・防災マップは大きくて開くのが大変。サイズがA4くらいであれば普段も見やすいし、災害時も使いやすい。

《防災マニュアルや自分ごと化シートの活用方法についての意見（抜粋）》

- ・マニュアルはもう少し簡単にして大雑把な情報のものを作り、詳しくは別紙でよいのでは。フローチャートは1回使ったらそれっきりになるのではないか。それよりも避難行動のチェックの方が、子供が進学して避難所が変わっても話をするに使えるのではと思った。

- ・非常持ち出し袋のチェックをするときに、賞味期限のチェックが必要だと思った。
- ・防災マニュアルを転入者に配っていると聞いたが、転入した時色々な資料を渡されたので全く記憶がない。配布の仕方を再考しても良いのではないか。
- ・子どもとの避難の場合、子どもも連れて、持ち物も持ってだと大変で、どちらを優先すればいいかと話をしていた。避難所にどういう物があるかわかっていれば、準備しやすくなるのではないか。
- ・P.22に救命訓練を受けておくとのあるが、どこで訓練を受けられるのか、どんな訓練を受ければ良いのかわからない。具体的に書いてあると良い。
- ・チェックシートに書き込むのがすごく良い。書き込むと分かりやすいし、書くとお年寄りも頭に入ると聞いた。あらかじめ記入しておいて冷蔵庫に貼っておくというのも良いと思う。

■提案書の完成に向けた作業について

- コ 会議終了後、提案書を完成させる作業は、委員の皆さんがよろしければ、構想日本が責任をもって行うこととするが、問題ないだろうか。

委 問題ない。

■自分ごと化会議 2022 全体を通しての感想、今日からの防災自分ごと化宣言

それぞれの委員から「会議に参加した感想や意見」と「防災に関する自分ごと化宣言」を発言してもらった。

【以下、会議に参加した感想や意見（抜粋）】

- ・問題を他人事にせず自分ごと化できたのが良かった。
- ・これまで海拔0メートル地帯に住んでいて、安全な太田に引っ越して来たので安心していましたが、防災バッグを買ったり色々準備するようになった。この会議へ出てよかった。
- ・会議に出たことで物の見方が変わった。
- ・会議に参加して自助の考え方を初めて知った。行政に頼りきりの部分が多くあったと思った。自助や共助をしっかりとやらないといけないと感じた。
- ・被災したことがないので他人事だったが、会議に出たことで、自分なりに勉強して作戦を立てたいと思うようになった。また、市役所が災害に備えてしっかりやっていることを知った。感謝したい。
- ・職場の施設でも、災害時にどういうルートで避難するか役所に提出しなければならず、避難経路の話をしたりしていた。災害は起こらないのではという話をしていたところにこの会議があったことで、より意識をするようになった。共有できる場が

あってよかった。

- ・太田は災害がないと思っていた。以前にいた街は水害が多く、ハザードマップを見ながら住む所を決めていたが、やはり太田でも考えないとだめだなと会議に出て思った。
- ・多文化共生推進士を務めている。情報を発信するだけでなく、仕掛けを作っていないといけないと会議に出て感じた。
- ・今まで防災の意識がなかったが、意識が少し変わった。自分の家の周りに危ない所が無い確認していきたいと思った。
- ・この会議に参加して防災に対する意識が高まった。自分が行動できるようになる機会を与えてもらってよかった。ホームセンターに行ったが防災グッズは高かった。少しずつ揃えていきたい。

【以下、防災に関する自分ごと化宣言】

- ・「地域、風習、習慣と一緒にみんなのできるという協働作業」
- ・会議に出て屋根瓦が飛んだ時のブルーシートを準備したが、それを止める紐と重りも揃えようと思う。
- ・職場の人や知り合いなどできるだけ多くの身の回りの人たちに、市が出している情報を伝えていく。
- ・自分だけではなく家族と話して共有しながら、防災グッズを揃えていきたい。
- ・防災グッズをそろえたい。防災メールの登録をしたい。
- ・職場での防災だけでなく家庭での防災にも目を向けていき、家にも防災グッズを増やしていく。
- ・自分の身は人に頼らず、まずは自分で守る。
- ・防災に関して地域でイベントなどをやっていきたい。学校で訓練などをする場合も保護者だけではなく地域を巻き込んでやりたい。どれだけ外国人の意識を変えていけるのかチャレンジしていきたい。
- ・非常食などを試す。防災グッズもそろえていきたい。
- ・クーラーボックスを買うなど、少しずつできることからやっていきたい。

■まとめ

- コ 太田市の自分ごと化会議に関わるのは今年度で4回目だった。今回の会議では担当課の危機管理室が非常に前向きに取り組んでくれた。災害時の被害をいかに少なくするのか、平常時にも危機管理室は頑張っている。行政と市民、お互いが歩み寄り、一緒に災害に備えていくのが大切と思う。

市 自身は東日本大震災の後に多賀城市に派遣され住宅補修の申請受付支援に関わっ

た。補助金申請の受付に泥だらけになった通帳を持って来る人もおり、本当に胸が締め付けられる想いだった。また、令和元年の台風の際には、市民体育館で避難所担当として一晩過ごした。当時は別の部署におり、避難所運営が終わった後に改善点を危機管理室に要望した。今回自分が異動してきた時にはその要望が全て整っていた。防災は幅が広く奥が深い。改めて日頃から勉強深めていきたいという思いで会議を聞いていた。熱心な議論をありがとうございました。

市 普段も区長さんとは話す機会があるが、様々な方の話を聞くこういう機会は重要だと思った。会議を機に自分なりの避難時の行動計画を作ってみた。必要なものは地域や家庭によって異なり、地震や台風、規模や段階によっても必要なものは異なる。防災グッズを買うということを皆さんおっしゃっていたが、100円ショップでも使えるグッズは買える。平常時と兼用できるものを選ぶことで買いやすくなるので、そういった準備も良いと思う。身近な方と共有してほしい。

市 防災グッズを揃えることを考えてくださる意見が多かったので情報提供したい。一時的に避難する時のものと、自宅にずっと帰れない時のものと防災グッズは大きく分けて2種類ある。長い避難生活の際にいつも抱いて寝ていたぬいぐるみが無くてとても悲しかったという話を聞いた。それぞれ自分にとって必要なものは異なるので、家族で話し合いながら必要なものを決めて、不自由ない避難生活を送れるように考えていただければと思う。これからも防災情報を市から発信していくので、ぜひ市民の皆さんからも情報を取りに来ていただいて備えてほしい。

市 市としては情報を伝えたつもりでも、実際には伝わっていないことが多いと感じた。皆さんにきちんと伝わっていくような周知方法を検討していけたらと思う。高校の時、仙台で被災した。駅の天井が落ちてきたり、色々な所から煙が上がっていたのを今も忘れられない。避難所生活も1日したが、行政も被災していて避難している方同士で助け合っていた。こういう所で共助の必要性を感じた。今回この会議が出来て良かったと思っている。

コ 気づいたことをいかに実践してもらえるか。職場ではSDGsに取り組んでいる。そんな中で一番大きな問題となっているのは分断が様々な所でできてしまっていること。我々自身が解決していかないと、いい社会になっていかない。災害時でも、普段の生活の中でも、考えていければと思う。

市 今年度の自分ごと化会議は今日で終了となる。長期間大変お世話になりました。